

2 まちづくりに及ぼす効果

2-1 どんな効果が生まれるのか

公共事業における景観配慮は、地域に様々な効果を及ぼします。人と水辺をつなぐ安らぎの場として整備された河川は、そこを訪れる人々に癒しと潤いを与えます。また、四季折々の自然と親しめるように整備された緑豊かな公園は、地域に住む人々の憩いの場として多くの人々に日常的に利用されます。このような、公共事業の目的である、美しい景観や快適な空間を創出するという直接的な効果以外にも、「良好な街並みの整備が地域内外から多くの人々を引き寄せ、通りに活気が生まれた」、「地域住民と一緒に考えて考えたという公共事業の進め方が、地域の人々のまちづくりへの関心を高めることになった」といった、波及的な効果も発現します。さらに、「行政の中にまちづくりを考えるための新たな組織がつけられた」、「整備された良好な景観をお手本に、周りの地域でも景観整備が進んだ」など、まちづくりの様々な側面で、また様々な次元で多様な内容の効果が発現します。

本章では、このようなまちづくり効果には、一体どのようなものがあるのかを整理します。

本書では、表-2.1 に整理した 25 の効果項目を対象とします。これらは、巻末に掲載した 20 事例から抽出したものです。

表-2.1 「まちづくり効果」の項目

効果項目	
1 良好な景観の具体像に対する住民の理解が深まる	14 景観形成の推進が行政計画として位置づけられる
2 まちづくりに対する官民それぞれの役割に対する理解が深まる	15 地域の景観的な魅力が高まる
3 官民が協力し合ってまちづくりを進めようとの機運が高まる	16 地域資源（シンボル、歴史・文化等）が保全、発掘される
4 「まち」に対する住民の関心が高まる	17 景観整備や景観に対する配慮が周辺に広がる
5 まちの景観はみんなのものという意識が芽生える	18 まちの景観的な構造が明確になる
6 まちづくりに対する住民の参画意識が高まる	19 地域ならではの技術が開発される
7 地域内外の多くの人々が訪れ利用する	20 伝統技術が復元・活用される
8 様々な地域活動（イベント等）が行われる	21 開発、活用した技術が広まる
9 まちにおける人の動き・流れが変わる	22 地域の商業・産業活動が活発化する
10 住民がまちづくりに積極的に参画する	23 まちのブランド力が高まる
11 関係者間（行政機関・地元組織）の連携が促進される	24 マスコミ・マスメディア掲載が増える
12 まちづくり団体（NPO・協議会など）が発足する	25 デザイン賞など各種賞を受賞する
13 景観形成を進めるための体制が構築される	

2-2 効果の種類

表-2.1に整理したように「まちづくり効果」は非常に多様であり、また様々な形で発現します。ここでは、「まちづくり効果」をより深く理解するために、効果を「効果の種類」と「効果の範囲」の2つの軸で類型化して解説します（図-2.1）。

1) 効果の種類

効果がどのように発現するかに着目すると、25の効果は、「人々の意識として発現する効果」、「人々の行動として発現する効果」、「組織・制度として発現する効果」、「空間・都市として発現する効果」、「技術として発現する効果」、「地域の経済として発現する効果」、「外部評価として発現する効果」の7つの種類に分類することができます。それぞれの種類の詳細は、「2-4 『まちづくり効果』の一覧」で解説します。

2) 効果の範囲

効果がいつ発現するかに着目すると、25の効果は「当該事業において発現する効果」、「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」の2つに区分することができます。

このうち、「当該事業において発現する効果」は、対象とする公共事業において、その担当者が直接的に発現をめざすことのできる効果です。当該事業の進め方次第で効果の発現が期待できる、直接的でわかりやすい効果ということもできます。

また、「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」は、対象とする公共事業においてめざす効果の到達点ともいえる効果です。ただし、まちづくりの全体像を考えた場合には、これらは通過点であるということもできます。

このように、「まちづくり効果」の発現には、事業の実施段階または事業完了後に発現する効果、完了後のまちづくりの取組み段階で発現する効果など、すぐに発現するものから発現までにある程度時間を要するものまで、様々な効果があります。効果の範囲をあらかじめ確認することで、めざすべき効果が発現するまでの時間やプロセスを意識して取組みを進めることができます。

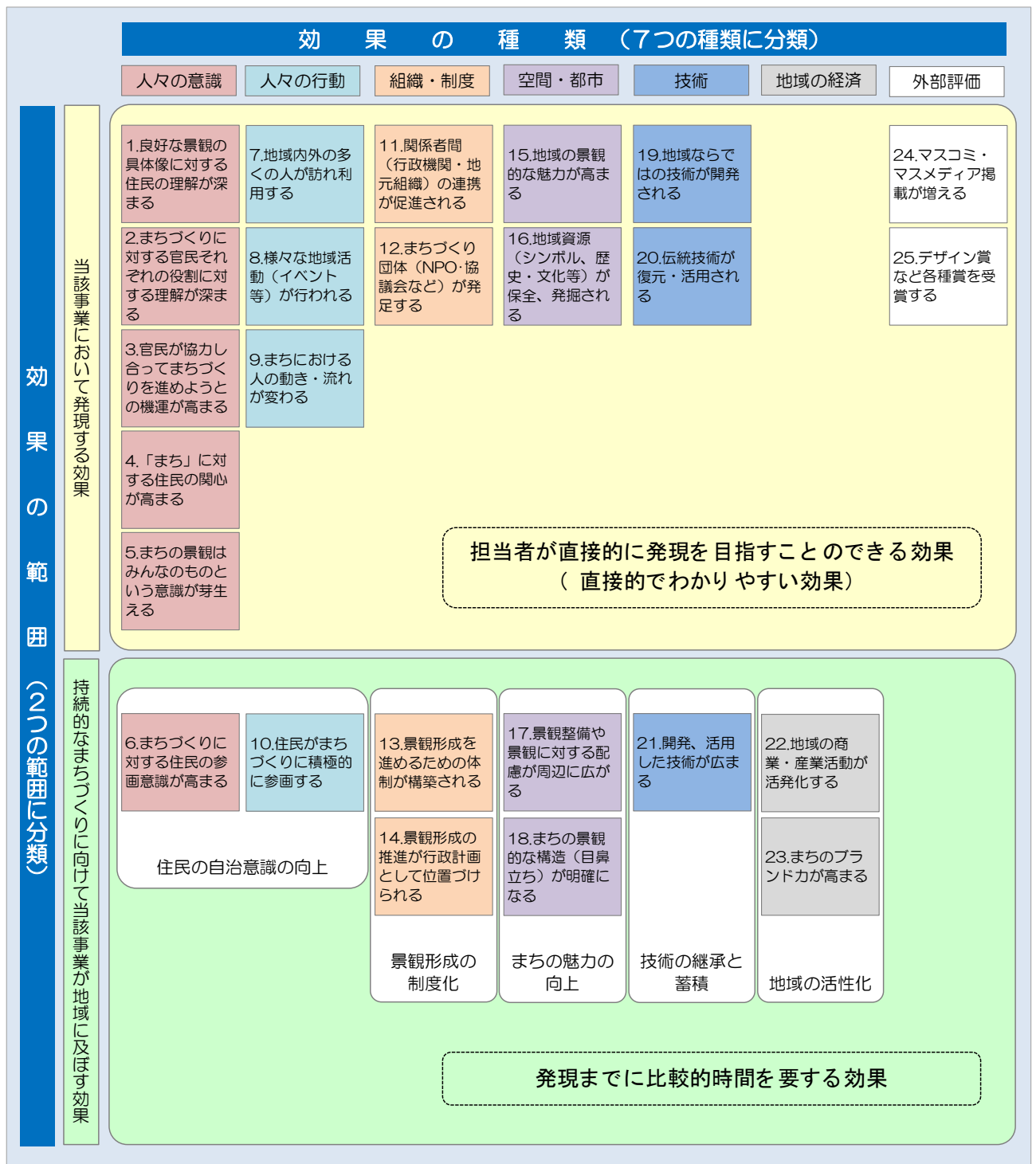


図-2.1 「まちづくり効果」の全体見取り図

2-3 効果の相互関係

「まちづくり効果」は、単独で成り立っているものではなく、相互に関連しあっています(図-2.2)。事業の実施にあたっては、こうした効果の相互関係を意識して、総合的に効果の発現をめざすことや効果を把握することが大切です。

「2-2 効果の類型 2) 効果の範囲」で述べた「当該事業において発現する効果」には、「事業の進め方に係る効果」と「良質な空間の創出に係る効果」の2つのタイプがあります。ただし、それぞれのタイプの効果に「事業の進め方」又は「良質な空間の創出」だけが影響するわけではありません。事業の進め方の工夫により「4. まちに対する住民の関心が高まる」効果が発現し、その結果、「8. 様々な地域活動が行われる」ことで、創出された空間のまちづくり効果がさらに高まるといえるように、それぞれの取り組みや効果は相互に関係しています。創出された良質な空間を活かすためにも、さらには良質な空間自体を生み出すためにも、事業の進め方が重要になります。そして、これらの様々な効果が重なり合い、その総体として、「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」が発現するのです。

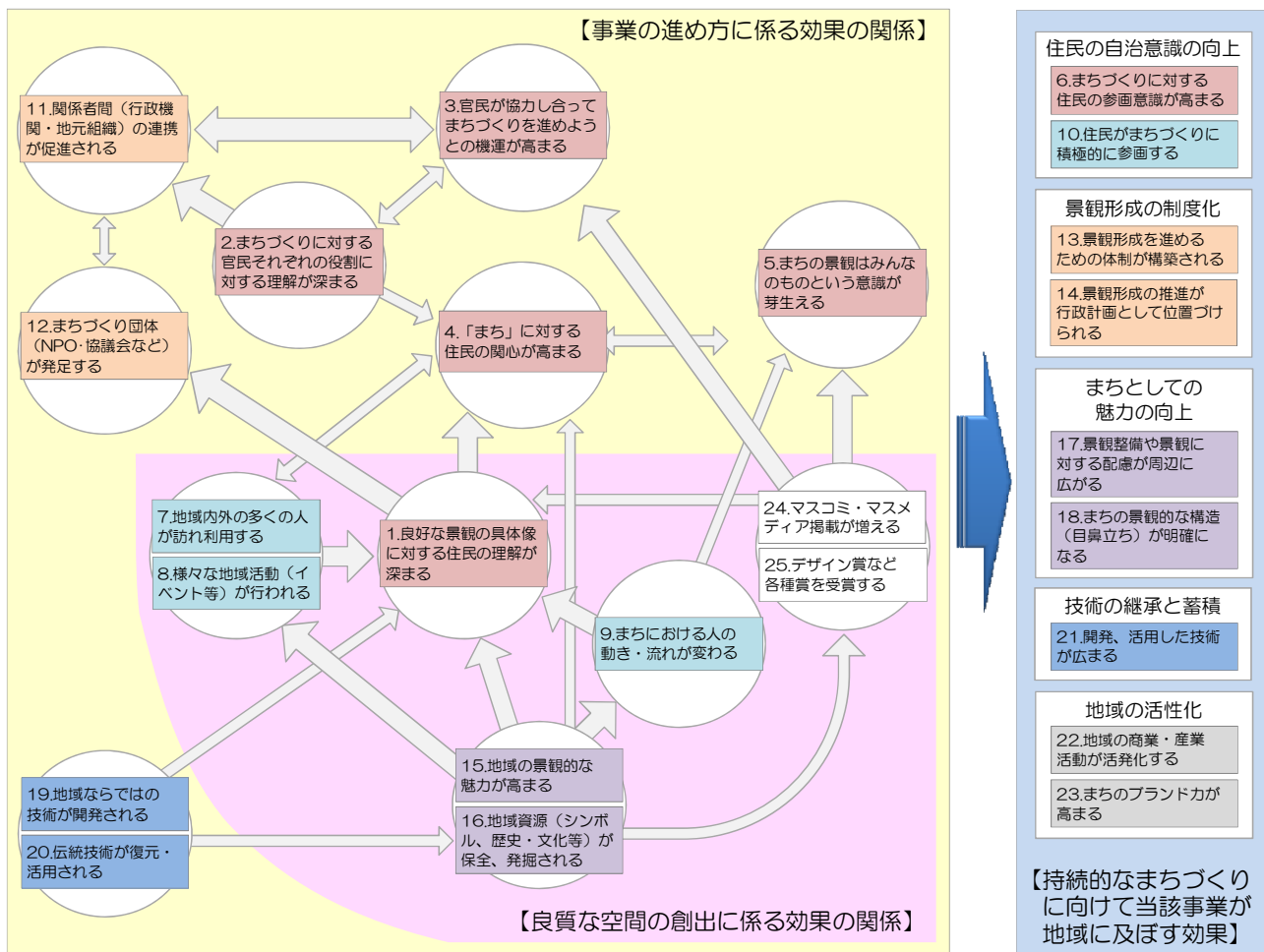


図-2.2 「まちづくり効果」の相互関係

2-4 「まちづくり効果」の一覧

「まちづくり効果」の一覧では、具体的な事例を交えながら、効果の内容やまちづくりにおける意味を解説します。7つの効果の種類ごとに、写真等のビジュアルな資料を中心としたシートの形で整理していますので、ここで紹介する事例を入り口とすれば、様々なまちづくり効果が存在することがわかります（図-2.3）。



図-2.3 「まちづくり効果」のシートの見方

【人々の意識】として発現する効果

効果1. 良好な景観の具体像に対する住民の理解が深まる

効果4. 「まち」に対する住民の関心が高まる

効果2. まちづくりに対する官民それぞれの役割に対する理解が深まる

効果5. まちの景観はみんなのものという意識が芽生える

効果3. 官民が協力し合ってまちづくりを進めようとの機運が高まる

効果6. まちづくりに対する住民の参画意識が高まる

効果1

良好な景観が目の前にあることによって、その具体像に対する理解が深まります。それは、まちに対する愛着や親しみに繋がります。

彦根市の夢京橋キャッスルロードでは、整備された街並みを絵の題材とする人が見られるようになりました（写真-2.1）。これも良好な景観に対する理解が深まったことの現われです。



《効果の類似発現例》

- ⇒ 絵画の題材（津和野川）
- ⇒ 景観写真展の開催（馬堀海岸うみかぜの路）
- ⇒ 愛称の付与（鳥羽カモメの散歩道） など

写真-2.1 整備された街並みを題材に絵を描く人々

効果2

効果3

地域住民と一緒に進める公共事業では、話し合いの過程を通して、地域住民が自分たちの役割を理解することに繋がります。住民の思いを組み込んで創出された横須賀市の馬堀海岸うみかぜの路では、人々の愛着からボランティアサポートプログラムの協定の下に地域挙げての清掃活動が行われています。（表-2.2 及び写真-2.2）

《効果の類似発現例》

- ⇒ 子吉川市民会議の花壇管理（子吉川）
- ⇒ 近隣事業所職員の早朝清掃（油津堀川運河） など

表-2.2 馬堀海岸ボランティアサポートプログラム概要

（出典：横浜国道事務所HP⁷⁾をもとに作成）

実施団体名	馬堀海岸緑陰道路美化清掃隊
団体人数	164名（平成19年7月時点）
活動箇所	一般国道16号神奈川県横須賀市馬堀海岸1丁目から神奈川県横須賀市走水1丁目までの約1,800m
活動内容	歩道、歩道植栽帯の清掃活動
開始期間	平成19年3月17日から
活動日	原則毎月第三土曜日



写真-2.2 国、市、住民が連携して維持管理を行っていることを示す看板

- ・「人々の意識」として発現する効果は、直接目にする事ができないため、捉えるのが難しい効果です。しかし、まちづくりを担うのは地域の人々であることを考えると、「人々の意識」として発現する効果の意味は大きく、これが「人々の行動」や「組織・制度」、「空間・都市」として発現する効果の出発点ともいえます。
- ・「人々の意識」として発現する効果では、創出された空間や事業の進め方から受ける直接的な印象に関わりの強い効果（効果1、効果2など）から、それらを介してのまちづくりに対する意識の高まり、さらには「まち」そのものに対する関心といったように、段階的に効果が発現していきます。

効果4

創出された空間や事業の進め方から得られた景観に対する意識の高まりは、「まち」そのものに対する関心へとつながっていきます。津和野町では、津和野本町・祇園丁通りの景観整備の後、通りに面した多くの店舗等には、津和野のまちの魅力や周辺の見所を紹介するパンフレットなどが置かれるようになりました。（写真-2.3 及び写真-2.4）



写真-2.3 店先に置かれたまちに関するパンフレット

《効果の類似発現例》

⇒店舗の一角を使った御休みどころの設置
（油津堀川運河）

など



写真-2.4 歩く人を主役と考え整備された街路と店舗

効果5

効果6

景観に対する意識の高まり、「まち」に対する関心の高まりは、みんなでまちの景観を創っていこうという気持ちを育てます。

那覇市のやちむん通りでは、琉球石灰岩を使った街路整備により多くの観光客が訪れるようになり、沿道の店々が木片に壺屋の情景を歌った詩を書くなど、おもてなしの心が表れるようになりました。（写真-2.5 及び写真-2.6）

《効果の類似発現例》

⇒店先の来訪者用の腰掛の設置（夢京橋キャスルロード）
⇒店先の花によるおもてなし（津和野本町・祇園丁通り）など



写真-2.5 琉球石灰岩で整備された街路を訪れる人々



写真-2.6 木片に壺屋の情景を詠い来訪者を迎える店舗

【人々の行動】として発現する効果

効果7. 地域内外の多くの人々が訪れ利用する

効果9. まちにおける人の動き・流れが変わる

効果8. 様々な地域活動（イベント等）が行われる

効果10. 住民がまちづくりに積極的に参画する

効果7

日南市の油津堀川運河の整備では、かつての石積みを復元するとともに、運河沿いに憩いの空間を創出しました（写真-2.7）。その結果、運河沿いにはしばしば人が集い、運河を見て楽しむようになりました（写真-2.8）。他の多くの事例にも見られるように、地域住民の日常的な利用は、基本的な「まちづくり効果」です。



写真-2.7 運河沿いのプロムナードと憩いの広場が創出された油津堀川運河の整備（出典：二井昭佳氏提供）



写真-2.8 広場に集まり水辺の雰囲気を楽しむ人々

効果8

景観配慮により創出された快適で愛着のある空間では、地域の人々により様々なイベントが企画されます。

使われなくなっていた運河船溜まりを活用した富山市の富岩運河環水公園では、水際の園路を周回する市民駅伝が開催されています（写真-2.9）。

整備された水際の園地や天門橋などはその日は絶好の観客席に早変わりします。

《効果の類似発現例》

- ⇒赤穂義士まつりパレード（赤穂お城通り）
- ⇒油津港まつり（油津堀川運河）
- ⇒市立中学校駅伝（馬堀海岸うみかぜの路）など



写真-2.9 駅伝コースとなる水際の園路と観客で賑わう広場

- ・「人々の行動」として発現する効果は、「人々の意識」として発現する効果が目に見える形で具体的に現れたもののひとつです。創出された空間に地域内外の人が訪れ日常的な活動が行われる、創出された空間を使って様々なイベント等の地域活動が展開されるなども、「人々の行動」として発現する効果です。
- ・このような人々の行動は、創出された空間だけでなく、地域全体における人々の行動の変化を引き起こし、まち全体の人の動きや流れの変化として現れることもあります。
- ・これらとはやや性格が異なるものの、まちづくりへの積極的な参加も、まちづくりへの関心が具体的な行動となって現れたものです。

効果 9

人々の行動として発現する効果は、創出された空間の中だけで発現するわけではありません。多く人が訪れ利用される空間の創出は、まち全体の人の動きや流れを変えることもあります。

那覇市ではやちむん通りの整備により、隣接する市場で止まっていた人の流れが変わりました（写真-2.10、図-2.4）。それを示すように、やちむん通りへの案内サインの整備も進んでいます（写真-2.11、図-2.4）。

《効果の類似発現例》

- ⇒観光客の動線の変化（夢京橋キャッスルロード）
- ⇒メイン通りから界隈への人の流れ（赤穂お城通り）
- ⇒川沿いを巡る買い物客の流れ（新町川） など



写真-2.10 街路整備をきっかけに通りまで繋がった人々の流れ



写真-2.11 やちむん通りの案内サイン



図-2.4 市場周辺と壺屋地区の位置関係

効果 10

人々の行動として発現する効果は、景観やまちに対する関心の高まりと相まって、まちづくり活動への参加というかたちでも発現します。鳥羽市の鳥羽カモメの散歩道の例では、整備をきっかけに市民協働のまちづくりに対する認識が高まり、「とばみなとまちづくり市民協議会」が組織され、市民有志が積極的にまちづくり活動に参加しています（写真-2.12）。

《効果の類似発現例》

- ⇒子吉川市民会議（子吉川）
- ⇒NPO 法人直方川づくりの会（遠賀川直方の水辺） など



写真-2.12 とばみなとまちづくり市民協議会での熱心な話し合い（出典：鳥羽市HP[®]より転載）

【組織・制度】として発現する効果

効果 11. 関係者間（行政機関・地元組織）の連携が促進される

効果 13. 景観形成を進めるための体制が構築される

効果 12. まちづくり団体（NPO・協議会など）が発足する

効果 14. 景観形成の推進が行政計画として位置づけられる

効果 11

効果 12

直方市の遠賀川直方の水辺の整備では、市民の思いを組み入れた整備をきっかけに、それまで計画検討の中心を担っていた直方川づくり交流会のメンバーが母体となって、NPO 法人直方川づくりの会が発足しました。

直方川づくりの会は、水辺整備の一環として建設された「遠賀川水辺館」の管理運営を直方市から委託されています（写真-2.13）。さらに、この遠賀川水辺館から新たな活動グループが生まれています（図-2.5）。

《効果の類似発現例》

⇒子吉川市民会議の発足（子吉川）

⇒やちむん通り会の発足（壺屋やちむん通り） など



写真-2.13 遠賀川水辺館

キッズLNC

対象者：未就学児と保護者
6歳までの子どもと、お母さんのためのクラブ。水辺館や遠賀川周辺の自然を活かして親子で遊び、学びます。

めだかの学校

対象者：小学生、中学生
だ〜れが、生徒か先生か♪学習ビオトープ春の小川の生物調査や、水質しらべ、野鳥観察を毎月行っています。

YNHC（青少年博物学会）

対象者：中学生・高校生・高専生
学校の垣根を越え、水問題や生物多様性に取り組む、中高生による、全国の中高生のための活動ネットワークです。

SWE E P（河川・環境ボランティア）

対象者：大学生・大学院生・専門学校生
遠賀川を中心に地球環境の保全活動、違う学校同士の学生間の親睦を深め、次世代の活動をサポートし活動の輪を広げる。

Joint of College／遠賀川ユースリーダー

対象者：大学生・大学院生・専門学校生
災害復興支援ボランティアを契機に設立した九州内の大学生ネットワーク。平常時は情報交換と仲間づくりをしています。

図-2.5 水辺館から生まれた活動グループの例

（出典：遠賀川水辺館パンフレット⁹⁾をもとに作成）

効果 12

効果 13

鳥羽市の鳥羽カモメの散歩道の整備では、付加価値の高まった整備をひとつのきっかけに、協働のまちづくりの重要性、有効性を市が強く認識するに至りました。その結果、まちづくりに取り組む市民有志、鳥羽市職員、まちづくりを支援するNPOも参画して「本当の協働」型市民参加を目指し、「とばみなどまちづくり市民協議会」を立ち上げました（図-2.6）。市の「まちづくり交付金事業」をベースにすることで、市民協議会での議論が具体的整備に結びついています（写真-2.14）。

《効果の類似発現例》

⇒子吉川市民会議の活動（子吉川）

⇒やちむん通り会の活動（壺屋やちむん通り） など



（仮）とばみなど・まちづくり市民協議会 開催

市では、鳥羽の玄関口である鳥羽駅周辺（佐田浜から4丁目にかけて）の市街地の賑わいを取り戻そうと「まちづくり交付金事業」を活用して、公共・公益施設の整備等の重点的な取り組みに着手したところです。

また、国の調査でも空間の快適性に関する整備が遅れていると指摘されたことを受けて、県の事業として、快適空間TOBA部会や、とばベクトル会議などが活動しており、商工会議所においても市街地の活性化に向けて活発に事業を展開しているところです。

これまで、そういった取り組みの情報などが集約される場がなく、風通しの悪い状態となっていたことや、「まちづくり交付金事業」で整備する内容については、みなさんといっしょになって「鳥羽の玄関口」、「鳥羽の顔」の基盤づくりを進めていきたいと、（仮）とばみなど・まちづくり協議会を立ち上げました。

鳥羽市まちづくりニュース（平成17年11月1日第7号）より引用

図-2.6 市民協議会開催を知らせる広報資料

（出典：鳥羽市HP¹⁰⁾をもとに作成）

写真-2.14 市民有志が専門家を招き、まちづくりの一環としての整備を志向したカモメの散歩道

- ・「人々の意識」として発現した効果は、地域の多くの人に共有されて社会的な認知が高まることで、社会的な仕組み等の構築に結びつきます。それが「組織・制度」として発現する効果です。
- ・そのため、効果の発現には長い時間を要する場合があります。また、単に良好な空間が創出されるという結果だけでなく、事業の進め方や事業完了後のフォローアップなどといった、より総合的な対応がこの効果の発現に結びつきます。

効果 13

日南市の油津堀川運河の整備では、地場材の飫肥杉を活用した整備が行われています(写真-2.15)。これをきっかけに、施工業者や行政の間で飫肥杉への関心が高まり、市は「飫肥杉を核としたまちづくり推進プロジェクトチーム(飫肥杉課)」を組織しました。飫肥杉課は庁内横断的な組織で、土木建築の枠を超えた飫肥杉のブランド化等、幅広いまちづくり活動に結びついています。(写真-2.16)



写真-2.15 地場材の飫肥杉を用い伝統的の木橋工法で整備された夢見橋

《効果の類似発現例》

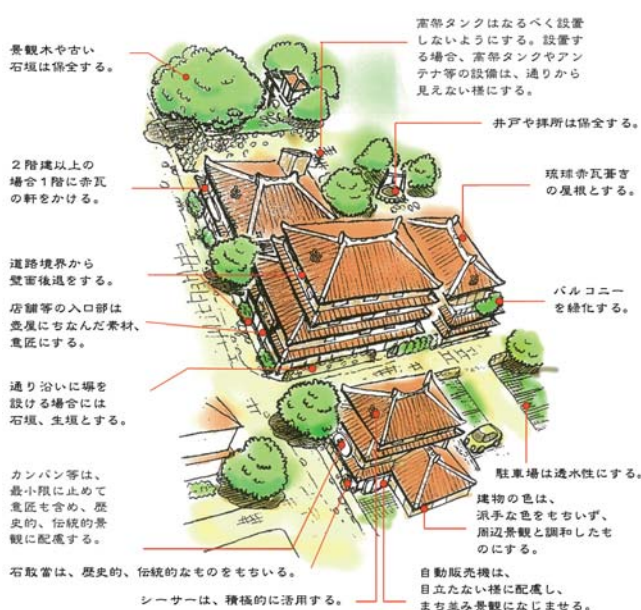
- ⇒ 景観アドバイザー制度の制定(鳥羽カモメの散歩道)
- ⇒ 景観条例の強化(津和野川) など



写真-2.16 商店街の看板等へ飫肥杉利用の広がり

効果 14

那覇市の壺屋やちむん通りの整備では、通りの整備をきっかけに市の景観計画における都市景観形成地域の指定がなされ、沖縄らしい景観形成の動きが地区全体に広がりを見せています。(図-2.7)



《効果の類似発現例》

- ⇒ 景観重要公共道路の指定(横須賀うみかぜの路)
- ⇒ 景観形成地区の指定(赤穂お城通り) など



図-2.7 壺屋地区都市景観形成地域の範囲(右)と景観形成のイメージ(左)(出典:那覇市HP¹¹⁾より転載)

【空間・都市】として発現する効果

効果 15. 地域の景観的な魅力が高まる

効果 17. 景観整備や景観に対する配慮が周辺に広がる

効果 16. 地域資源（シンボル、歴史・文化等）が保全、発掘される

効果 18. まちの景観的な構造が明確になる

効果 15

効果 16

地域の景観的な魅力が地域の人々に十分に実感されることで、様々なまちづくり効果がより有効に機能します。

横浜市の和泉川（ふるさとの川整備）では、河川改修にあたり、既に矢板により一部の護岸が完成していましたが、流路の付替えや植樹、隠し護岸などにより、自然豊かな水辺空間としたことで、地域の景観が大きく向上しています。（写真-2.17 及び写真-2.18）。



写真-2.17 関ヶ原の水辺：整備前（出典：吉村伸一氏提供）



写真-2.18 関ヶ原の水辺：整備後（出典：吉村伸一氏提供）

さらに、和泉川の水辺整備では、市が借地した川沿いの斜面林と川との間の土地を取得し、川沿いの丘陵地斜面を含めた地域景観の骨格を保全しています（写真-2.19）。このことが地域景観の魅力の向上と住民の憩いの場の創出に強く結びついています。



写真-2.19 河川区域内だけでなく川を取り巻く丘陵斜面地を含めて骨格が保全された和泉川沿いの地域景観

《効果の類似発現例》

⇒沿道施設空間との一体的整備（山口パークロード） など

- ・「空間・都市」として発現する効果は、具体的に目に見える空間や都市の姿として現れる「まちづくり効果」です。この効果は、景観配慮によって直接的に創出された空間や施設の魅力だけにとどまりません。地域のシンボルである山への眺めを楽しむ公園の整備が、山と公園との間にあるビルの屋上の看板を撤去することに結びくように、地域全体の良好な景観としても現れることが大きな特徴です。
- ・創出された良好な景観は、地域の人々が景観を考える上でのお手本になります。それを目の当たりにすることで、多くの人の心にそれにふさわしいまちにしたいという思いが芽生え、それが良好な景観の整備や景観への配慮として伝播し、創出された空間や施設の周辺から、やがては地域の他地区などに広まっていきます。

効果 17

公共事業により生み出された地域の景観的な魅力は、その事業の範囲内だけにとどまりません。池に投じた一石の水の波紋が広がるように周りに広がっていきます。

津和野町の津和野川（ふるさとの川整備）では、創出された良好な河川景観に呼応するように、川沿いの民間の建物の修景が行われています（写真-2.20）。

また、赤穂市のお城通りの整備では、景観配慮の重要性と有効性が認識されたことで、景観配慮が路地空間にも広がりを見せ、まちの回遊性の向上にも一役買っています（写真-2.21）。



写真-2.20 津和野川の整備に触発されるように修景された川沿いの建築物



写真-2.21 路地空間への広がりを見せる赤穂お城通りの景観配慮

《効果の類似発現例》

⇒沿道建物の自主的な修景（夢京橋キャスルロード） ⇒路地への整備の広がり（壺屋やちむん通り）など



写真-2.22 新旧の県庁をビスタとした印象的なまちのシンボル軸となっている山口パークロード

効果 18

事業の範囲内に留まらない景観配慮は、外の要素をうまく取り込むことでまちの景観構造にも大きな影響を与えます。

山口市の山口パークロードの整備では、新旧の県庁をビスタに、沿道の文化施設とも一体となった緑豊かな道路空間が形成され、まちのシンボル軸を強く印象付けています（写真-2.22）。

《効果の類似発現例》

⇒都市の軸線の明確化（赤穂お城通り）
⇒海辺の軸の創出（鳥羽カモメの散歩道） など

【技術】として発現する効果

効果 19. 地域ならではの技術が開発される

効果 20. 伝統技術が復元・活用される

効果 21. 開発、活用した技術が広まる

- ・地域のまちづくりのことを考え、良いものを生み出したいという思いが根底にある景観配慮では、新しい発想やアイデアが生まれることも多くあります。地域に伝わる伝統技術の復元や活用などはその代表的な例です。
- ・事業において生み出された技術や知恵は貴重な財産であり、「技術」として発現する効果は、公共事業がまちづくりに及ぼす大きな効果のひとつです。

効果 19

横手市の横手川の河川改修では、護岸の嵩上げにあたり、通常であれば撤去あるいは移植する河岸の樹木を根の回りだけを嵩上げせずに保護するといった工夫を行い、河岸樹木と一体となった良好な河川景観の保全を行っています。(写真-2.23)



写真-2.23 横手川の河川改修で残された樹木（右）と保護工法（左）

《効果の類似発現例》

⇒石州瓦を組み込んだパラペットデザイン（津和野川） など

効果 21

那覇市の首里城公園の復元整備では、地場の伝統技術であった赤瓦を焼く技術を復元し、これをまちづくりにおいても活用しています(写真-2.24)。赤瓦は周辺地域の景観整備にも広く活用されることになり、地場産業としての瓦産業の活性化にも寄与しています(写真-2.25)。



写真-2.24 首里城公園の復元整備



写真-2.25 首里城周辺でも広く使われる赤瓦

《効果の類似発現例》

⇒木橋伝統工法技術の再現（油津堀川運河）
⇒電軌道敷地の緑化（鹿児島市電軌道敷緑化）など

【地域の経済】として発現する効果

効果 22. 地域の商業・産業活動が活発化する

効果 23. まちのブランド力が高まる

- ・「地域の経済」として発現する効果は、それ自体を直接的にめざすというよりは、個々のまちづくり効果を経て、それらが相乗的に作用した結果として現れる効果です。
- ・そのため、この効果の発現については長いスパンで考え、取組む必要があります。

効果 22

徳島市の新町川の水辺整備はボードウォークに面した新たな店舗の立地を促し、商店街の活性化に結びついています（写真-2.26）。

平日はもちろん、休日になるとボードウォークを利用したパラソルショップなどの様々なイベントも開催され、観光客も含め市内外の多くの人々で賑わっています。



写真-2.26 川沿いのボードウォークに面した新たな店舗

《効果の類似発現例》

⇒公園内への喫茶店立地（富岩運河環水公園）

⇒景観を売りにした保養施設の立地（馬堀海岸うみかぜの路）

など

効果 23

戦災復興事業により整備された仙台市の定禅寺通は、いまや杜の都仙台のイメージを代表するシンボルとなっています。

定禅寺通りは、仙台市が選定したわがまち緑の名所 100 選¹²⁾としても紹介され、多くの観光客が訪れてみたいと思う場所になっています（写真-2.27）。



写真-2.27 ジャズフェスティバルや結婚式の記念撮影等にも利用される定禅寺通

《効果の類似発現例》

⇒沖縄ブランドの確立（首里城公園）

⇒運河のまちのイメージ強化（油津堀川運河）

など

【外部評価】として発現する効果

効果 24. マスコミ・マスメディア掲載が増える

効果 25. デザイン賞など各種賞を受賞する

- ・「外部評価」として発現する効果とは、景観に配慮した公共事業が外部機関等から高く評価されることです。外部評価を得ることが事業に関わった人々や地域の人々の自信や誇りにつながります。
- ・このように「まちづくり効果」の出発点でもある「人々の意識」に波及することが、この効果の大きな特徴です。螺旋上昇的にもう一度「人々の意識」に戻り、さらに一段上の「まちづくり効果」の発現につながっていきます。

効果 24

景観に配慮した公共事業の成果が認められ、マスコミ・マスメディアなどに取り上げられることも「まちづくり効果」です。なぜなら、それによって、より多くの人々が訪れるようになり、地域の人々のまちへの関心や愛着が増すとといった、意識の高まりにつながるからです。

鹿児島市の市電軌道敷の緑化は、緑の都市賞など様々な賞を受賞し多くの視察者などが訪れています。軌道敷緑化による良好な風景は、市の観光ポスターの題材にも取り上げられ、観光客誘致に一役買っています（写真-2.28）。



《効果の類似発現例》

- ⇒テレビドラマのロケ（津和野川）
- ⇒新聞掲載（壺屋やちむん通り）など

写真-2.28 鹿児島市電軌道敷の緑化（左）と、その景観を題材にした鹿児島市の観光ポスター（右）

効果 24

広島市の太田川基町護岸の整備（写真-2.29）では、土木学会景観デザイン賞特別賞の受賞を記念して、当時の設計に係った人々と現在のまちづくり団体の人たちが集まり、記念シンポジウムと水辺ウォークなどを行いました（写真-2.30）。そうした取組みが次のまちづくりのきっかけとなっています。



写真-2.29 高い外部評価を得た太田川の基町環境護岸

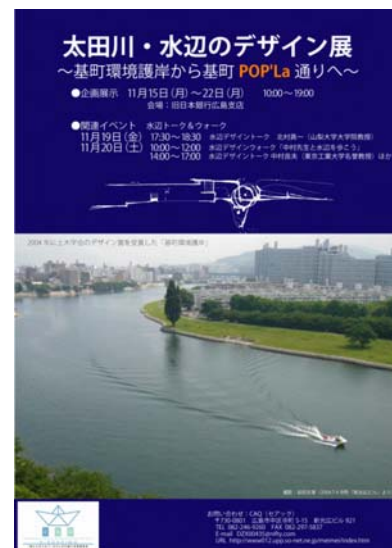


写真-2.30 受賞記念イベントの案内

《効果の類似発現例》

- ⇒川を考える座談会を組んだ竣工記念イベント（子吉川）
- ⇒デザイン賞記念のシンポジウム（遠賀川直方の水辺）

など

取組みのヒント

現地に立ってみる

「まちづくり効果」を高めるための公共事業における景観配慮。そのヒントは現地に埋もれています。困った時の現場頼みではありませんが、現地に立ってみることでいろいろなことが見えてきます。周りはどんな土地利用なのか、どんな暮らしが営まれているのか。その場所はどことつながっているか、そこから何が見えるのか。雨の日には雨の日なりの、早朝には早朝なりの現地の姿が見えます。これらは、図面や写真からだけでは把握することのできない、まさに生きた資料です。

また、一人ではなく、相談できる相手を連れて現地に立つことで、「1 + 1 = 2」以上の効果が期待できます。

「まちづくり効果」の把握方法

《効果把握の目的》

何のために「まちづくり効果」を把握するのか。まずそのことを考える必要があります。

「まちづくり効果」を把握する目的は、効果発現をめざして取組んできたことの成果を確認し、次の取組みに実践的に活かすことであり、「まちづくり効果」を評価すること自体ではありません。

《効果把握の方法》

「公共事業における景観整備に関する事後評価の手引き（案）⁵⁾」では、景観向上効果を明らかにする調査方法として、①ヒアリング調査、②現地観測調査を、より詳細な調査が必要な場合には、③アンケート調査を実施するといった方法を提示しています。

アンケート調査から得られた結果は、数値として示すことができるため、客観的な判断や比較がしやすいという特徴があります。ただし「まちづくり効果」は数値だけでは説明しきれないものであり、アンケート調査の結果も数値の大小と効果との関係を見るなど、詳しい分析を行うときの参考として位置づけることが大切です。

一方、ヒアリング調査や現地観測調査は、実際に自分が見聞きすることから効果を把握する方法です。現地観測調査で1時間に何人の人が散歩に訪れたといった数値的な把握もできますし、そういうことがあったという事象の確認自体も重要な意味を持っています。



図-2.8 数値による把握と事象による把握

《現地観測調査における「まちづくり効果」の把握》

効果の把握にあたっては、公共事業の担当者自らが、効果の発現状況を把握し、それを実感することが大切です。

そのためにも、まずは、「まちづくり効果」が発現していると想定される現地に行き、現地観測調査を行きましょう。

現地に行っても、【人々の意識】や【組織・制度】などは把握できないのではないかと疑問に思うかもしれませんが、現地に立って、少しあたりを歩いてみるだけで、意外といろいろなことがわかります。その場に居合わせた人たちの言動に耳を傾けてみるのも有効です。

表-2.2 に示した事象指標は、現地観測調査を行う際のヒントです。

なお、現地観測調査をより意味のあるものにするためには、事業実施前の状況との比較が有効です。機会を見つけて、地域の道路や河川の状況を記録しておくことが大切です。

表-2.3 効果の把握に有効な事象指標の例

「まちづくり効果」の種類	効果把握に有効な事象指標
【人々の意識】	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描いている人がいる 記念写真を撮っている 愛称が付けられている（愛称の銘板がある） 店の前に花が飾られている 落書きが見られない、ゴミが散乱していない <p style="text-align: right;">など</p>
【人々の行動】	<ul style="list-style-type: none"> 散歩している人、佇んでいる人を見かける イベントが開催されている 近所の人掃除をしている まち歩きモデルコースになっている（案内サインがある） 最寄り駅に当地までのマップが置いてある <p style="text-align: right;">など</p>
【組織・制度】	<ul style="list-style-type: none"> 地域ボランティアが清掃をしている 花壇などにまちづくり団体などのプレートがある 商店の看板が統一されている 景観形成地区の指定などのプレートがある <p style="text-align: right;">など</p>
【空間・都市】	<ul style="list-style-type: none"> 周りの建物がきれいになっている 連続する道路が同じように舗装されている 地域シンボル（山、城など）が印象的に眺められるようになっている 地域資源（古木など）が保存・再生されている <p style="text-align: right;">など</p>
【技術】	<ul style="list-style-type: none"> 特徴的な素材（地場材など）が用いられている ちょっとした技術的な工夫がみられる 用いられた技術の説明版がある <p style="text-align: right;">など</p>
【地域の経済】	<ul style="list-style-type: none"> 新しい店ができている 映画のロケ地に使われた旨の説明版がある 観光客で賑わっている <p style="text-align: right;">など</p>
【外部評価】	<ul style="list-style-type: none"> 賞の受賞を記念したプレートがある ガイドブック片手に観光客が歩いている マスコミの取材、視察ツアーに遭遇する <p style="text-align: right;">など</p>

※効果項目ごとの効果の把握方法の詳細については巻末の参考資料を参照



図-2.9 現地調査で確認できる事象の具体例

